

ふるさとの風景と思い出を十七音に
「内子町小・中学生俳句大会」

「第8回内子町小・中学生俳句大会」(内子町教育委員会主催)の表彰式が12月17日、共生館で行われました。町内全ての小中学校から995句の応募があり、最優秀賞8句、優秀賞46句、入選28句が選ばれました。

式では受賞者に賞状が贈られた他、選句者を務めた町内俳句会の代表者や教員、夏井いつきさんの講評が述べられました。ここでは最優秀賞に輝いた子どもたちの俳句と、選句者の講評を紹介します。

◆内子町教育委員会選

選句者の講評

けしごむのしかくがまるになつやすみ

五十崎小1年 橋本結愛さん



夏休みに新しい消しゴムが丸くなるまで使って、よく勉強したんだなということが分かります。いつの間にか小さくなった消しゴムに焦点を当てた、作者の目の付け所が素晴らしいと思います。

十二さいケーキで始まる夏休み

内子小6年 高岡海成さん



12本のろうそくを吹き消し、切り分けたケーキを家族でいただく幸せ。12歳として自覚も生まれ、楽しいことがいっぱいありそうな夏休みです。「ケーキで始まる」の措辞で、誕生日と夏休みのうれしさが伝わります。

おかえりと祖母がひょいっと夏みかん

内子中3年 松元ことはさん



おばあちゃんと作者とのほのぼのとした関係が分かる句です。「ひょいっと」という言葉で、おばあちゃんの手品のような所作を表現しています。作者はきっと「ただいま。ありがとう」と笑顔で受け取っているのでしょう。

◆夏井いつき選

夏井先生の講評

なつのうみろけつとみたいななみがきた

五十崎小1年 青木景吾さん



「ろけつとみtaina」がいいですね。やって来た波を体中に受け止めたのでしょうか。ぎらぎらとまぶしい海の光や、かたくとがった波の形や、波に体ごとさらっていかれる勢いがありありと伝わってきます。

朝顔のとなりでかわくスニーカー

天神小4年 石井智萌奏さん



朝顔が次々とひらいてゆく、すがすがしく気持ちの良い朝です。朝日を受けてみずみずしい朝顔の美しさと、洗ってきれいになったスニーカーが乾いてゆく気持ちよさが、健やかに取り合わされています。

《教育委員会選とダブル受賞》

背泳ぎ5コース上にひこうき雲

天神小6年 山田心陽さん



「5コース」を泳ぐ選手を応援しながら、飛行機雲も一緒に声援を送っているように感じたのかもかもしれません。プールをぐんぐん泳ぎ進む選手の目にも、勢いよくまっすぐ伸びる「ひこうき雲」が見えています。

夕焼けの戻れぬ春の背番号

小田中3年 三浦大弥さん



春まではつけていた背番号を外すことになった夏。レギュラーを外されてしまったのか、それとも、故障してしまったのでしょうか。もうあの頃には戻れないのだな、との想いを夕焼けが切なく美しく包んでいます。